

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674100439		
法人名	医療法人社団 洛和会		
事業所名	洛和グループホーム勸修寺番館 1階		
所在地	京都市山科区勸修寺西金ヶ崎238番地		
自己評価作成日	平成22年11月5日	評価結果市町村受理日	平成23年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2674100439&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム勸修寺番館はすぐ側に川が流れており、川沿いの遊歩道は四季の花が身近に感じられる散歩道です。気軽に外出がしやすい環境だといえ、活かしていきたいポイントです。それに伴い外出の支援には力を入れています。日頃の散歩はもちろん、利用者の希望に沿った外出も、楽しみを提供するという視点だけでなく、外へ出掛けることで地域との繋がりを少しでも感じてもらいたいという視点から積極的に支援をしていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該グループホームは、自立支援、入格の尊重と利用者本位、地域との連携等を念頭に置き、職員の円滑なチームワークでこれらのケアに日々前向きに取り組んでいます。自立支援では排泄面を重視し、個々に合わせたトイレ誘導で布パンツへの移行など成果が見られた方も多くおられます。また日課の中で一人一人のできる事や楽しみごとを見出し、生活の質の向上を支援しています。職員の利用者への対応は大変丁寧で、特に言葉遣いには細心の注意を払い、常に高齢者への尊厳を心がけ、かかわりを深めることで利用者の意向の把握に努めています。開設以来地域との関わりも少しずつ広まり、運営推進会議では防災訓練への参加に繋げるなど有意義な会議と進展しています。保育園との交流もあり、地域の理解が浸透し地域との結びつきが利用者の安心した暮らしへ導いているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	洛和会としての理念を掲げており、事業所でも共通の理念と捉えている。しかし事業所として独自の理念はなく今後作り上げていきたい。	法人の方針を事業所の理念として掲げ、職員会議で内容について振り返ったり、地域交流に繋げていこう努めています。各ユニットごとに大切にしている取り組みや想いを明文化し、独自の理念を作り上げたいと考えています。	各ユニットごとで職員の心得や身近な生活目標を話し合い、地域密着型としての事業所独自の理念を皆で作られることが期待されます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や近隣の商店との付き合いなどはあるが、地域との付き合いの面では、自治会への加入が出来ていない面もあり、地域の中で事業所がどのような立ち位置で交流していけるかが課題であると感じる	地域の方とは散歩や買い物で挨拶を交わして馴染みの関係になり、見学や訪問などが多くあります。近隣の保育園との交流があり、秋祭りには地域の方を招待しています。町内会への加入に向け、管理者が働きかけを続ける事で最近では町内会議に参加できるところまで進展しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポートリーダーの講習会を地域の方々に向けて開催を計画し今後の開催を予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの状況についての報告を含め参加頂いている地域の方からは事業所の地域への働きかけについて等の助言を頂き、利用者の地域交流の機会に繋がっている。	利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員が参加し2ヶ月に1回開催しています。事業所の近況や行事、取り組み内容を報告し、様々な意見をもらっています。参加者を広げ柔軟な会議になるように食事会形式にしたり、防災訓練の参加依頼をするなど、内容の充実に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の内容を市町村担当者にお知らせし、ホームの状況については連絡しているが日頃から連絡を取り合っている訳ではない。	制度上の手続きで管理者が役所へ向向き、書類をもらったり担当者と話しています。運営推進会議の議事録は郵送していますが、来年度より、ホーム便りを持って行き、事業所の様子を伝え連携を深めたいと考えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体での研修があり事業所の職員は参加し理解を深めている。	日中は玄関やユニット入口は開錠されエレベーターも自由に乗れる状態になっています。外出希望の方には職員が付き添ったり、拘束について研修や勉強会を行い理解を深めています。常に見守りや確認を行い、安全を確保しながら閉塞感のない生活の提供に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内での勉強会を開催し虐待の防止に努めている。		

洛和グループホーム勸修Ⅱ番館（1F）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社外の研修会に参加を促している。実際に制度を活用されている方もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでには実際に管理者及び担当の職員が面談を行い不安や疑問点を尋ね、不安や疑問点の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の玄関に意見箱を設置している。また、年に2回アンケートを実施し事業所の運営に関して意見を頂いている、それをもとに職員間で話し合い改善につなげている。	ケアの内容について担当者が家族に希望用紙を配布し、記入してもらっています。面会時には、具体的なエピソードを伝えるとともに家族が話やすい雰囲気づくりに配慮しています。また家族アンケートを行い集計結果は季刊誌に載せて、家族にも直接改善策を伝えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で自由な意見交換が出来るように機会を設けている、さらに個別で話す機会を持ち、意見や提案が出しやすい環境となるように勤めている。	管理者はヒアリングや年2回の自己評価時に職員と個別で話す機会を持ち、職員にも満足度調査を行っています。会議では一人ひとりの意見が出るよう質問したり、会議進行についての研修に参加し、提案が出しやすい有意義な話し合いの場になるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	匿名のアンケートを実施し職員個々の給与水準や労働時間に対する思い、やりがいの把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に2度力量評価を実施し個人の力量の把握に努めている。法人内研修も毎月開催されており、学ぶ機会が多く設けられている。法人外の研修も積極的に参加できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での勉強会や研修会で他のホームの方との交流も持っている、近隣のGHとは相互に訪問をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始前には管理者と担当者が本人との面談を行い、直接困りごとや不安についての把握に努め、安心してサービスの開始が出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの開始前後には連絡を密に取ることで家族の不安を解消していくと共に、要望が出しやすい関係となるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	専門の相談員がおり、本人や家族の意向を踏まえた上で適切なサービスの提供が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支えあい生きるという考えのもと関係を築きケアの提供を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を中心に共に支えあえる関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームへ来訪してもらうだけでなく、個別の外出などの機会を作り、馴染みの人や場所との関係を出来るだけ継続していけるように努めている。	友人が遊びに来られたり、スーパーや喫茶店など馴染みのお店や、本人が暮らしていた場所に訪れたりしています。昔の話を時々することで思い出したり、懐かしんでもらい、記憶がとぎれないように支援しています。また、年に1回、個別外出支援として馴染みの場所に出かける取り組みをしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりの強弱はそれぞれあるものの、孤立することのないように、利用者同士の関わりを促せるような役割や機会を多く作れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了する際にも良い関係が保ち続けられるように配慮している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式をアセスメントに用い、一人ひとりの思いの把握に努めている。	入居時に法人の相談員と管理者が家庭訪問して得た情報や家族にも記入してもらったアセスメント記録などを参考に、日々の関わりや言動から意向の把握に努めています。わからない部分や好みなどは家族に聞き、本人の意向に添ったサービスになるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用して本人の生活歴や馴染みの暮らしについて情報収集をし把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式でのアセスメントと独自のチェックシートを用い一人ひとりの日常生活や状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中から本人の思いの把握に努めた上で、家族や他職種からの意見や情報を収集し、介護計画を作成している。	本人・家族の希望やアセスメントをもとにカンファレンスを開き、介護計画を立てています。日々の24時間ケア記録や医師の指示書も加味し、1ヶ月ごとに職員全員でモニタリングを行い、3ヶ月に一度見直しを行っています。随時の変更も行き、現状に即した計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や介護計画をもとにしたケアの実践のついてを個別の介護日誌に記載し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り状況や、本人、家族の要望に応じて柔軟に対応している。		

洛和グループホーム勸修Ⅱ番館（1F）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力を得て本人の楽しみや力の発揮の機会が増えている。同じ地域の保育園との交流も計画し進行している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と十分に話し合い、納得の上受診等の支援を行っている	入居時にかかりつけ医の継続も可能であることと協力医療機関について説明したうえで、かかるつけ医を決めています。協力医は月6回の往診と24時間協力体制があり、その他週1回看護師の訪問、歯科医の随時往診もあります。受診時の指示書や記録はその都度職員に回覧し、共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	馴染みの看護職員が定期的に訪問しており報告、連絡、相談が行えており、利用者の状態に応じた適切な助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の相談員とは常に情報交換しており連携が図れている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後避けては通れない問題として捉え、家族や医師、看護師と話し合い、職員間でも意識の共有をしている	看取り指針があり、入居時に説明し同意を得ています。今までに看取りの経験があり、重度化した場合はその方の状態に合わせてその都度、家族や医師を交えて話し合いを重ね、方針を決めるように進めています。できるだけ家族の希望に添った支援が出来るように取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習を受講できるように働きかけており、もしもの時にも実践が出来るように体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し利用者の安全な避難誘導について話し合っている。もしもの時に地域の力を借りることが出来るように、訓練への参加も呼びかけている	2ヶ月に1度消防訓練を行い、年2回消防署立ち合いの避難訓練を行っています。運営推進会議での呼びかけで家族や民生委員、地域の方にも訓練に参加してもらっています。今後は近隣の方々に広く呼び掛け、見学、参加頂けるよう展開していきたいと考えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護についての社内研修に参加し徹底できている。個人の尊厳を損なうような声掛けとなっていないか月に1度の会議などで話し合っている。	利用者への言葉かけには声の大きさや語尾の調子、指示的にならない等日々十分な配慮をしています。会議で言葉遣いについて話し合い、自己評価も行っています。またマナー研修出席者が伝達研修を行い、全員で共有し意識を高めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より希望や思いを表現しやすい関係作りを目指している。本人の能力に応じて自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者本位の生活を念頭に置き支援している。ただ、職員配置の都合により常に希望に沿った暮らしの提供が出来ているわけではない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のそれまでと変らない服装や身だしなみを継続していけるように支援している、外出時には化粧やおしゃれを楽しんだり、ショッピングをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや希望を聴きながらメニューを決め共に準備を行って食事を作っている。機会が多いとは言えないが、共に買い物に行き食材を選ぶところから利用者の力を活かしていけるよう努力していきたい。	献立は担当者がその都度冷蔵庫の中味を見ながら利用者と相談して決めています。テーブルで食材切りや盛り付けができるように工夫し、配膳、洗い物などできる事を一緒にしています。またおやつ作りも楽しみの時間となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取については量を把握し水分の確保が困難な方には本人の摂りやすいもの、ゼリーや好きな味を選んでもらい提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの実施声をかけて、一人ひとりの出来ない部分に合わせて働きかけている。必要な方には週に1度歯科衛生士による口腔ケア設けている		

洛和グループホーム勸修Ⅱ番館（1F）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が出来るように排泄パターンの把握に努め本人のパターンに応じさりげなく支援を行うことでトイレで気持ちよく排泄が出来るように努めている	アセスメントの中でも排泄面を挙げ、日々の排泄表から状況やパターンを把握し、できるだけトイレで排泄してもらうようにタイミングを見て誘導しています。その成果あって日中は布パンツに変更になった方も多く、トイレ介助がかかわりの時間ととらえ自立に向けた支援を積極的に行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防のため活動量の確保のため、歩くことの支援、午前中の体操の機会を作っている。また水分摂取についても、本人の好みを把握し飲みやすいものの提供をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特に時間や曜日の指定はしていない。入浴について、希望やタイミングに合わせるため、本人と話しをして決めている。	毎日準備ができており、曜日や時間は決めず、希望があればいつでも入浴可能で週2～3回、午後から夕方までに入浴して頂いています。個別ケアとして銭湯へ行ったり、入浴剤や柚子湯、職員と一緒に会話や歌を楽しみ、ゆったりと入浴してもらえるよう配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由にそれぞれの居室に戻り休んでもらっている。自由に行き来が出来ない方についてはその日の体調を把握し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を職員全員が回覧し薬への把握に努めている。症状の変化については、主治医、訪問看護師と連携し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることや利用者同士の関係を役割を通してより深めていけるよう支援している。日々の関わりや生活歴から楽しみを把握し実践していけるようにさらに深めていきたい		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩等の支援は働きかけることで機会を持てている。買い物や自宅への帰省など、家族と協力し行っている。楽しみや希望に沿った外出の機会をさらに増やしていけるように努力していきたい。	天気の良い日にはホームの周りを散歩したり、スーパーへ買い物に出かけています。またカラオケや菜園、喫茶店などその方ならではの戸外での楽しみも支援しています。外出行事は定期的に計画に組み入れ、花見や紅葉狩り、神社参り、初詣など季節に合わせた外出も行っています。	

洛和グループホーム勸修Ⅱ番館（1F）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で持っている方や、ホームにすべて預けている方おられるが能力に合わせて支援していきたい		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人から電話がかかってきたり。こちらからかけたりとしている。年賀状のやり取りをしている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり和室のテーブルを冬はコタツにしたりと居心地のよい空間となるように工夫している。	入り口や廊下にはカバーがかけられたソファや椅子が置かれ、ほっとできる場所が随所に設けられています。壁には季節の装飾や貼り絵が飾られ、ホーム全体が温かく落ち着いた雰囲気になるよう工夫されています。各階の行き来が多くあり、利用者同士の繋がりも大切にしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にはテーブルがあり、リビングにはベンチやソファを置いてゆったりと過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や仏壇などを入居時に持参してもらい本人が居心地よく過ごせるようにしている	居室は明るく、清潔感があります。クローゼットは備え付けですが、今まで使い慣れた物を家族に依頼して持ち込んでもらっています。畳の部屋も多く、鏡台、椅子、写真やぬいぐるみ、大正琴、仏壇等、一人ひとりが安心できるものを置き居心地良く過ごして頂けるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式を使用し一人ひとりのわかることや」出来ることの把握に努め、安全に自立した暮らしが継続できるようにしている。		